

仙南地域における県基幹種雄牛「昭光茂」を活用した畜産振興の取組

大河原家畜保健衛生所
 大津琴乃、蝦名由璃子、平川紗知、齊藤陽介

1 はじめに

仙南地域では、平成26年7月に4つの地域改良組合からなる、仙南和牛改良推進組合(以下、「推進組合」)を設立、将来的な和牛育種組合設立を目指して地域一体となり活動している。

しかし、高齢化や後継者不足等の従来の問題に加え、近年の飼料価格高騰や子牛価格の下落などの、畜産農家にとって厳しい情勢が続き、生産や改良に対する生産者の意欲の低下が仙南地域でも課題となっていた。そこで、令和4年6月に角田市生まれの「昭光茂」が県基幹種雄牛に選抜されたことを受け、地域内の生産者組織・団体及び行政が連携し、「昭光茂」を活用した畜産振興の取組を行うこととした。

仙南地域から県基幹種雄牛が選抜されるのは、平成25年丸森町生まれの「仁美桜」以降、9年振りであった。「昭光茂」の現場後代検定成績(表1)は、全国平均を大きく上回り、検定終了時点で枝肉重量は県歴代1位、脂肪交雑は県歴代2位という極めて優れた成績での選抜である。

表1 現場後代検定成績(枝肉重量、脂肪交雑) ¹⁾

種雄牛	枝肉重量 (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)
昭光茂	543.3	9.6
全国平均※	466.2	6.6

※ 令和3年3月までの広域後代検定の成績

2 県基幹種雄牛「昭光茂」の活用促進の取組

県は、県基幹種雄牛選抜を関係者に周知することを目的に、JA主催の「県基幹種雄牛認定祝賀会」に併せて、「昭光茂」の検定成績や活用方法について

講演を行った。また、角田市広報や県が発行する情報誌に「昭光茂」に関する記事を掲載することで、地域の明るいニュースとして畜産業界のPRを行った。

一方、産子の生産と活用の促進については、推進組合及び角田市和牛改良組合(以下、「改良組合」)による複数の新規・拡充助成事業により交配・雌牛保留・肥育素牛導入を促進した(図1)。本県では、選抜された県基幹種雄牛の生産地域に対し、精液を優先的に配布する制度があり、これを利用して他地域よりも早く交配を進めるため、改良組合が制度の上限50本の精液購入費用を支援した。加えて、改良組合は「昭光茂」産子を登記した場合に3万円を助成し、産子生産を促した。優良産子の地域内保留については、推進組合及び改良組合が昭光茂産子に上乘せ助成を行い、中長期の改良を進める対策とした。また、推進組合では、肥育素牛導入に対しても助成し、全ての経営形態に加え、人工授精師等を含めた地域全体がメリットを感じられるよう取り組んだ。

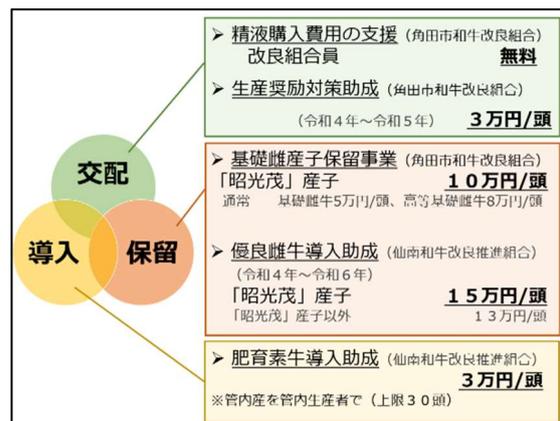


図1 推進組合と改良組合による各種助成

仙南地域における精液購入本数は、購入費支援を

行った令和4年7月に150本に達し、それに連動して令和5年5月以降、生産頭数も上昇した(図2)。しかしながら、精液配布本数と生産頭数は徐々に減少していき、令和5年10月の精液配布本数は取組直後の5%に満たない状況となった。継続した産子の生産と活用するためには、仙南地域だけでなく、他地域を含めた肥育農家の理解と発育の良い産子の高い評価が必要と考え、産子のPRを目的に更なる取組を行った。

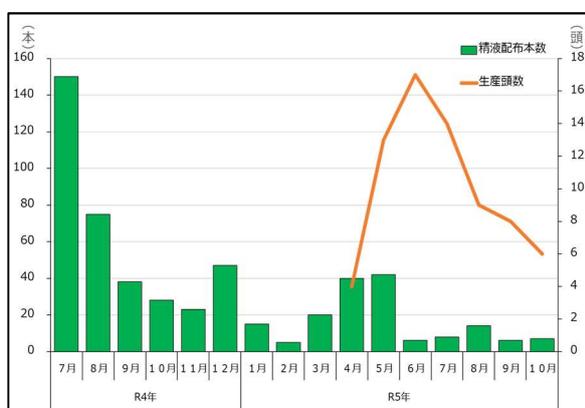


図1 仙南地域における「昭光茂」精液配布本数及び生産頭数の推移

「昭光茂」の活躍を後押しするため、県内外の購買者への周知と地域外における交配促進を目的として、子牛市場でのPR活動を実施した。

仙南地域畜産振興協議会として家保が中心となり、産子上場に併せて「のぼり」の掲揚及びポケットティッシュ、リーフレットを配布し、血統や現場後代成績の周知を行った。また、産子には徽章(図3)の装着を行い「昭光茂」の上場をPRした。1月16日の子牛市場では、仙南地域から2頭の産子が上場し、市場平均価格(税込)が牝536,177円、去勢598,950円であったのに対し、昭光茂産子は牝682,000円(127%)、去勢935,000円(156%)と高額で取引された。



図3 徽章を装着した「昭光茂」産子

3 生産基盤の強化促進の取組

地域では約2年に渡り、「昭光茂」の活用促進の取組を進めてきた。しかし、依然として畜産情勢の先行きは不透明であり、これらの取組を継続して推進するためには、下支えとなる地域の生産基盤の強化が必要と考え、「昭光茂」の活用推進と併せて、生産基盤強化を目的とした人づくり・牛づくりの取組を実施した。

(1) 若手生産者の会の発足

仙南地域では、就農したばかりの生産者が各地域に点在しており、若手生産者同士の連携の充実が課題となっていた。管内の中核生産者から、次世代生産者の学びの場を作ってほしいと相談があり、組織の立ち上げを支援することとした。関係者が集まり、会の目的や構成、あり方を検討した結果、農協や行政がサポートする形で、若手生産者2名をリーダーとした生産者主体の会を作ることとした。次に、管内の若手生産者に対し、会の設立についての可否や学びたいことについてアンケート調査を行った。会の設立に多くの賛同が得られ、令和5年1月に会を発足し、顔合わせや今後の方針決めを行った。第2回では、アンケート結果を参考にNOSAIみやぎの獣医師を招き、繁殖管理に関する研修会を実施し、家保から畜舎特例法によるコスト削減や手続きの負担軽減について説明した。第1回・第2回ともに15名程度の生産者が参集し、学びだけでなく情報交換の場としても活用されている。

